



世界天気公開科学会議のご案内

世界天気公開科学会議（World Weather Open Science Conference, WWOSC）が、2014年8月16日から21日までの日程で、カナダ・モントリオール市で開催される。この会議は、世界気象機関（WMO）、国際科学会議（ICSU）、カナダ環境省（Environment Canada）、およびカナダ学術研究会議（National Research Council Canada）の共催により、「地球システムの数分から数ヶ月までのシームレスな予報」をメインテーマに開かれるものである。これまでに気候分野では同様な会議が開かれてきているが、天気分野で開かれるのは今回が初めてである。

この会議では、特に発展途上国からの35歳以下の若手研究者に対して、最高2,000カナダ・ドルの旅費補助が行われることとなっている。発展途上国が優先されるものの、予算に余裕があれば、先進国からの参加者に対しても補助が行われるので、気象学会員も申し込んでみる価値はあると思われる。

アブストラクトの申込み締切日は、2014年2月24日なので、WWOSCの公式ホームページ、[http://](http://www.wwosc2014.org/)

www.wwosc2014.org/から、ぜひ積極的に参加申込みをしていただきたい。

この会議は、科学プログラム（Science Programme, SP）と、ユーザー・応用・社会科学プログラム（Use, Application and Social Science Programme, UASP）という2つのプログラムからなり、それぞれに、以下のようなテーマが設定されている。

◎科学プログラム

- 特別セッション：THORPEX 後継プロジェクト
 - ・極域予測プロジェクト（Polar Prediction Project, PPP）
 - ・季節内から季節までの予測プロジェクト（Sub-seasonal to Seasonal Prediction Project, S2S）
- データ同化と観測
- 予測可能性と力学/物理/化学過程
- サブシステム間の相互作用
- 地球システムの数値予測
- 天気関連の災害と影響

◎ユーザー・応用・社会プログラム

- 経済活動・サービス
- 公共機関の役割
- 防災

会議初日の16日（土）夕方のオープニングセッションでは、WMOが進めている THORPEX（観測システム研究・予測可能性実験）の共同提案者の一人、Mel Shapiro 博士による講演が予定されている。

プログラムの暫定構成案は以下のとおり。

- 08:30-10:00 合同セッション（2 招待講演）
- 10:00-10:30 休憩
- 10:30-12:00 パネルディスカッション
パラレルセッション（SP, UASP）
- 12:00-13:30 昼食
- 13:30-15:00 パラレルセッション（SP, UASP）
- 15:00-16:30 ポスターセッション（軽食付）
- 16:30-18:00 パラレルセッション（SP, UASP）

SP の招待講演者で現在名前の挙がっているのは、Mel Shapiro 博士の他、以下の 5 名の方々である。

Al Kellie（米国大気科学研究所）：High Performance Computing の天気予報への応用

Philippe Bougeault（フランス気象局）：メソ気象予測と地域応用

Julia Slingo（イギリス気象局）：シームレス予報

Jean-Noel Thepault（ヨーロッパ中期予報センター）：データ同化と観測システムの課題

Alan Thorpe（ヨーロッパ中期予報センター）：全球予報モデルの将来展望

また、UASP では、以下の 5 名の方々が招待講演者として予定されている。

Rowan Douglas (Willis Research Network)：保険

Eve Grunfest（コロラド大学）：洪水その他の災害

Alberto Troccoli（オーストラリア CSIRO）：エネルギー

Emma Porio（マニラ大学）：災害の社会学

Haidong Kan（復旦大学）：大気汚染と健康

（世界気象機関 中澤哲夫，tnakazawa@wmo.int）